

**「新郷土資料館基本構想(素案)」
パブリックコメントの中間報告について**

平成29年1月11日
八王子市教育委員会 生涯学習スポーツ部 文化財課

「新郷土資料館基本構想(素案)」について、平成28年12月10日から平成29年1月8日までに皆様からいただいたご意見の状況を報告いたします。

報告対象期間:平成28年12月10日(土)～平成29年1月8日(日)
(パブリックコメント実施期間は平成29年1月15日まで)
意見提出者数: 10 人

番号	頂いたご意見の概要
1	ローマ法王や、皇族の方などにも、来て頂けたら良いな、と思います。出来るだけ、広く利用出来る様にしたいですね。(案件名の『「新郷土資料館基本構想(草案)」について』)
2	①30～100人程度の方が収容できる室を設ける。(理由)作業台(移動可能)を置き、講習会・サークル活動等で簡単な作業をすることができる。子供の科学教室として使用したり、小・中学校の利用促進にもなる。 ②100～150人が集まれる小ホールを設ける。床面は平面で、間仕切り可能なものとする。(理由)いろいろな講演会や企画展が開け生涯学習教育としても利用できる。集い交流の場としても使える。 ③建物の上層階に市内全体が展望できる場所を設ける。(理由)高台の傾斜地にある利点を生かし、市街地が展望できれば、郷土の姿がわかりやすい。東西南北が見えればよいが、少なくとも北側市街地が見えるとすばらしい。 ④八王子市の観光地の案内所を設ける。(理由)八王子市内の観光地を詳しく知ってもらい、たずねてもらふ。市外の関連機関の案内もでき、ネットワークの中心的機能をはたせる様にする。 ⑤建物の入口と交通機関の停車場所との距離を短かくする。(理由)路線バス観光バス、一般自動車の駐停車の場所から建物の入口までの距離が、あまり長いと、歩く距離が長くなるため、子供・高齢者が来場しづらくなり、来館者が減少する。 ⑥建物入口への東西南北通路を確保する。(理由)傾斜地のため、長い距離歩くのは大変である。八王子駅北口及び京王片倉駅から、遠まわりせず、無理なく建物入口に到達できることが必要です。又、東西の道路へも、短時間で出られる様にすることが必要がある。
3	私が近郊の資料館を幾つか見た中で是非参考にして頂きたいのは、府中市郷土の森博物館と川越市博物館の2箇所が印象に残っています。 小中学生でも分かり易い、映像や音声での紹介、案内人に依る説明。ブース別展示(特別・常設)ギャラリー・講座教室・講演会場等。 インターネットの紹介も有りますが、実施見学をして参考にして下さい(八王子の歴史を古代から現代また未来を表現して欲しい。)以上
4	現在の八王子市郷土資料館は、歴史系を中心とした博物館ですが、新たな博物館は、さらに自然史系分野を取り入れた博物館にして行くべきと考えます。 基本構想(素案)には、新たな博物館として「市民や地域に広く開かれ、未来へ成長し続ける博物館」とその趣旨をうたっています。その意味でも、既存の博物館を単に踏襲するだけでは、趣旨にそった博物館とは言い難い存在になってしまうはずです。八王子市には、もちろん歴史的遺跡や資料がたくさん残されていることは事実であります。それだけでなく高尾山をはじめとする豊かな自然環境もまだまだ残されていることも事実です。それらを後生に伝え、そして市民生活に活用していくことこそ、未来へと成長し続けることになるのではないのでしょうか。市民の中には、歴史的資料に興味をいだくだけでなく、自然環境にも興味をいただき、それを楽しみ、そして保全するために活動している方もたくさんおられます。それらの方々の受け皿になることもまた今八王子市に求められているのではないのでしょうか。今後の博物館が、市民や地域に広く開かれた施設になることを願っております。

5	新郷土資料館の基本構想を拝読し、多岐に亘る配慮に特に意見等とおこがましいのですが、あえて私見を述べさせていただきます。 1.歴史の上に現在があります。又、その現在からルーツを探ることも有意なことです。資料館で見たり、学んだりしたものが現在、どの場所で、どの様な根跡や、発展、維持されているのかを、現場に導く工夫をして多くの方々が、現場へ行っての見識を深められる場としていざなって欲しい。観光・学術の八王子の側面を更に支えることになると思います。 2.八王子の文化遺産がいろいろある中で、私は車人形に興味があり、文楽以上の価値があると思っております。現在西川古柳一座さんがその普及に勤めておられますが、こうした伝統芸能の定期・定時の講演がみられるようにするのは無理でしょうか。
6	①コンパクトでよくまとまっていると思います。名実ともに充実した施設を望みます。一方で「彩りから輝きへ」という市政100年を飾るプロジェクトとして市民の期待がさらに高まるような明快さや大胆さがほしいと考えます。 ②「郷土資料館」の名称を「博物館」に変更することを提案します。東京都では「新宿区立新宿歴史博物館」「府中市郷土の森博物館」「青梅市郷土博物館」がありますが、旧東京市について長い歴史を持つ八王子市としては、中核市という指定都市であることも考え合わせれば、ストレートに「博物館」と名称変更して、内外に広く周知を図っていく好機ではないでしょうか。個人的な印象ですが、「郷土資料館」に比較すると「博物館」の方が規模やロマンという点でより良いイメージを生むように思います。収蔵、研究、公開などさまざまなノウハウが伴ってのことで、慎重な姿勢や現名称への愛着も理解できますが、この機をとらえた大胆な発想転換を期待します。市民の意向を踏まえた上で検討いただきたいと思います。 ③「協創」という語句は平成27年策定の「都市づくりビジョン八王子」から採用された概念ですが、従来の「協働」との関係があいまいなままのように感じます。*1の説明によるいわゆるPDCAサイクル全体を意味するのであれば「協働」の語句は不要になります。「協創」の実践事例が積み重なっていればもう少し明快に説明できるのですが、現時点では市民の理解は進んでいるとは言えないと思います。例えば基本方針に「ユニバーサルデザインの充実」とありますが、これについての「協創」であれば「バリアフリー法」に基づく「基本構想」「重点整備地区」「住民提案制度」などへの多様な主体の参加、連携などを具体的に実践する道筋を示すことではじめて「協創」の概念が明確になって来るのではないのでしょうか。 ④「サードプレイス」という語句はおそらくコンサルの提案でしょうが、市のさまざまな施設にも適用する語句とするならば、いささか陳腐な表現と思います。*2の説明はアメリカの社会学者レイ・オルデンバーグの安易な引用で説得力に欠けます。また「サードプレイス」を冠した施設をネット検索すると、民間のレクリエーションや飲食施設にヒットし公共施設では見当たりません。このままでは表には出ない表現であっても「輝きへ」の100年をあらたに目指す博物館にとっては適切とは言えない語句と考えます。 ⑤展示・公開については「新八王子市史」の見える化に取り組んでほしいと考えます。多角的で体系的なこの大きな業績に、市民のみならず多くの人々が親しく接することができるように、市史編さん室とも連繋してぜひ実現していただきたいと思います。 ⑥設備面では既存の施設も活用とありますが、長期的な展望にたてば新博物館への集約が効率的と考えます。また広大な敷地を生かして、他施設もふくめて企画展などのイベント時に相互に利活用、シェアするなど柔軟に対応できるスペースと構造が長期的には求められると思います。

7	私は、八王子市において郷土資料館を新たに作る際、以下の3点が重要と考えています。 第一に、観光と博物館において、学術性を大切にすべき点です。東京都の各市区町村の観光案内を見ますと、まち歩きの中に博物館が存在します。当構想の中でもよく表れている部分であり、従来の郷土資料館よりも市民や他地域に住む人々に開かれたものになるでしょう。私は、観光により何かが見えなくなる事を、非常に危惧しています。例として、八王子は織物が盛んでしたが、八王子は織物だけではないのです。従いまして、象徴展示は「織物」ですが、企画展や特別展などの展示及び体験(ワークショップ)は、もっと様々な八王子を多面的に捉えるべきだと思うのです。また、郷土資料館の視点を盛り込んだツアーの企画を行う場合、文化財などのモノだけでなく、歩く道にも注目すべきです。何気ない道にも、往来の歴史が詰まっています。学術情報をどのように一般観覧者に面白く伝えるかは、郷土資料館の命題だと思います。学術情報を堅苦しいものと排除して、形骸化した「八王子」を見せても、単にコミュニティスペースでしかなくなります。展示は堅苦しい研究発表でなく、一般観覧者に「面白い切り口だ」と感じて頂ける展示であるべきだと考えています。例えば、市域の石臼の二次利用(踏み石など)の写真を多く集め、収蔵資料の石臼と八王子市における背景、そして、現代の食を考える視点もあって良いのではないのでしょうか。これを、調査団を組んで市民とともに行う事も考えられます。 第二に、観覧者増を見込んだいわゆる「懐かしい展示(回想法展示)」は、郷土資料館で行うべきではない点です。博物館施設の中には、回想法といい、懐かしい資料を展示する事で認知症に効くなどと言われています。回想法は医療行為から始まり、医療の分野においても未だ扱いが容易でなく、回想を促すには専門の人員が必要です。さらに、回想法展示は、博物館の調査研究を削ぎ落としたものでなくてはなりません。回想法ないし懐かしさを前面に出した展示は、博物館界の中でも、来館者の爆発的增加に繋がる事例が少例ありながらも、一方で、回想法と博物館の紹介されて10年ほど経過しても、行う博物館が少ない一番の理由は、地域のアイデンティティを守るためです。私は、八王子市新郷土資料館の展示に、若者にも楽しむ事の出来るものであって欲しいと願っています。一番の理想は、デートで郷土資料館を訪れたいと感じる施設である事です。その位、お金を多くかけずとも、何気ない部分から見えてくる面白さを共有できる施設である事が大切なのです。八王子のデート観光は、高尾山以外に郷土資料館でもあって欲しいと考えています。新郷土資料館は、懐かしい展示のアミューズメントパークでなく、色々な八王子を知るための施設であるべきなのです。 第三に、コミュニティーを利用した博物館企画です。体験(ワークショップ)は、子供中心が多く見受けられますが、大人も参加できるものであるべきです。また、ワークショップは、お土産として持ち帰る事の出来るものは大切です。お土産は、モノだけでなく、コトでも良いのです。例えば、お手玉など多くの遊び歌が八王子に残っています。お手玉をマスターするという企画のもと、八王子市域の調査研究データを利用したら面白いのではないかと思います。その様子をふらっと訪れた人が足を止めて見ていくような、開放された空間の、郷土資料館ならではの企画があれば良いと考えています。 以上、長文となりましたが、新郷土資料館が八王子市の話題スポットに上がるような施設になれば幸いです。
8	八王子といえば千人同心ですから、資料や研究結果を広く展示するのいいと思います。また、関東十八代官は千人同心と比べるとまだ市外の人への知名度が下ですからこれも詳展示するのいいです。例えば糸原勘兵衛なら八幡町というように、町ごとの由来などもありますから、それを地図的に関連付けたり、調査結果を紹介したりするのいいと思います。

9	八王子市郷土史料館の基本理念として「八王子の歴史・文化を探究し、広く継承・発信するとともに未来へ向けて市民・地域との協働(*1)を育む博物館」というコンセプト及び基本方針としての1～4、更に<基本機能>、<新たに取り組む課題>は素晴らしく全面的に大賛成です。このコンセプトを具現化し、後世に八王子の価値を遺産として如何に残せるかにすべては係っていると考えます。歴史遺産、文化遺産・自然・生態系に恵まれた遺産を一堂(郷土資料館・郷土博物館)に集約させて永久に公開、保存させていくことが八王子市の大切なミッションになると思います。 課題は、八王子の歴史遺産として、原始、古代から現代に至る遺跡、化石、宝物類(薬王院の寺宝含む)、文化遺産として、古文書類、資料等の遺産、自然・生態系遺産として、高尾山の環境保護に対する訴求、昆虫、植物類の標本遺産を展示、保管する施設の創設が必要だと考えます。高尾山の全種の昆虫類の標本を展示するだけで世界的に価値のある博物館になります。そのために、市民が所蔵、保管している標本類を行政の力で寄贈して貰い集めることを提案します。高尾山産として現在では絶滅して二度と採集できない種類を市民が所蔵しているはずで、<基本機能>に掲載されている(1)～(4)の各機能が充足される施設になることを念願して止みません。高尾山の豊かな生態系は地球温暖化対策や世界的な環境指標の構築に資することになり得るからです。
10	八王子駅南口にできる新しい郷土資料館には大変期待しているところです。八王子市郷土資料館は登録博物館として博物館法にのっとり運営されるのですから、「その第3条1の11 学校、図書館、研究所、公民館等の教育、学術又は文化に関する諸施設と協力し、その活動を援助すること。第3条の2 博物館は、その事業を行うに当つては、土地の事情を考慮し、国民の実生活の向上に資し、更に学校教育を援助し得るようにも留意しなければならない。」は基本機能の(4)に該当します。 八王子の文化や郷土の歴史を次の世代に伝えていくために、若い人が楽み集う(幼児、小学生～高校生、その保護者)場所でなければなりません。新たに取り組む機能(1)にも「誰もが気軽に立ち寄り」とありますが、①具体的に子どもを連れた若い世代が集える場所と明記してほしいです。貴重な郷土資料の展示や保管をするスペースと、気軽に触れたり体験できる場所を館内に整備してください。②子ども向けの地域資料が少ないことも気になっています。小学生でも楽しく読めたり学べたりできるような資料の収集や、作成もして、子ども郷土室のような部屋もあると良いでしょう。③小中学校でも郷土学習は必ず行います。そのための資料を市立図書館と協力して整備してください。④学校での郷土学習に外部指導者として学芸員の方が出張できるような体制を作ってください。⑤図書館の児童コーナーには平日でも親子連れや図書ボランティアをしている方の姿を多く見ます。そういう人たちが郷土資料館にも足を運ぶには、同じ館内に児童用図書館(児童コーナー)があるとなおよいと思います。 八王子市は市域が広いために魅力的な文化施設が散在し、利用しづらいのです。一か所でも、文化的な施設が集まっていると八王子の文化度が上がると思います。南口のオリンパスホールから、新郷土資料館、そのエリア内に子ども図書館や公園緑陰のある新しい地域の拠点となることを願っています。 新たに取り組む機能(2)については八王子の老舗のアンテナショップの展開はどうでしょう。八王子の新住民に、八王子の魅力を知ってもらい良いエリアになると考えます。さらに、はちバスのルートに郷土資料館を組み込み、気軽に出かけられる場所としてほしいと思います。どんなに立派な施設でも、貴重な資料があったとしても、一部の人がしか利用しないような施設にならないように、具体化するときは大学生など若い人の意見が反映されるようにしてください。